

ICT技術とひとづくりで防災力アップ

9月は
防災月間！

誰もが安心して暮らせるまちへ

誰もが安心して暮らせるまちには、災害時における防災体制の強化が欠かせません。市では先進のICT技術を活用しながら、地域防災のリーダーの育成に努め、地域で助け合える「共助社会」の構築を目指します。

問い合わせ

防災安全センター ☎24・8150

ICTその1 ドローンを活用した災害現場の状況把握

災害発生後、迅速な救援活動を行う上で現状把握は欠かせません。そこで、県内の消防本部で初めてドローン（小型無人機）を導入しました。ドローンには高性能カメラが搭載されており、人が近づけない現場でも空中からの広範囲な捜索で被災状況を正確に把握することができます。消防本部では引き続き、操縦者と消防隊との連携を深め、消防活動の向上を目指していきます。



ICTその2 もうすぐ整備完了 災害に強い戸別受信機

町内のコミュニティ放送には有線放送を利用していましたが、強風などによる断線で放送が伝わらないことがよくありました。そのため、有線放送スピーカーを無線用の戸別受信機に取り替える整備工事を進めています。進捗率は今年度末で92パーセントとなる予定で、平成29年度には完了します。

工事が完了した町内において、まだ設置していない住宅（新築や転居など）がありましたら、町内会を通してお早めにお申し込みください。



電池内蔵のため、避難時も持ち出し可能。

リーダー育成 求む！ みんなを救う防災士としみん救護員

まちの防災力を高めるためには、地域の人々が手を取り合って、お互いに顔の見える「助け合いの関係」を築くことが重要です。大規模な災害の場合、公的な救助活動が行き届かないことが予想されます。自分達の手で救助活動を実施しなければならぬ事態が考えられるため、日頃から地域で協力して、防災・減災のための活動を心掛けましょう。

市では、地域防災のリーダーとなる防災士やしみん救護員の育成に取り組んでいます。防災士やしみん救護員の資格取得に興味のある人は、お気軽にお問い合わせください。

特に避難所の運営面などにおいて、これからの防災には女性の視点を生かした対策が求められています。女性の皆さんの積極的な資格取得をお願いします。

◆防災士としみん救護員について

名 称	防災士	しみん救護員
資格認定	日本防災士機構	消防本部
概 要	防災力向上の意識、知識、技能を磨き、地域のために活動が期待される人を養成。	地域防災応急手当のリーダーを養成。
取得要件	日本防災士機構が開催する研修受講など	消防本部が開催する講習受講（計24時間）
受講対象	町内会長の推薦を受けた市民	
担 当 課	防災安全センター ☎24・8150	消防本部防災指令課 ☎20・2710



小松はまさに 乗りものの動物園！

こまつちゃん ●「乗りもののまち小松」は、まさに小松の強みや特色を生かした分かりやすい表現ですね。

和田市長 ●小松を「乗りもののまち」と表現して6年目になります。市内を見渡すと「空」をはじめ「陸」や「水上」を走行する様々な乗りものがあります。

想像力を働かせてみれば、個性的な乗りもの達が市内を悠々と闊歩し、飛び回っているようにも見えませんか。子供達にとって、小松は乗りものの動物園のようにワクワクいっぱいの魅力的なまちに見えていることでしょう。

最先端の技術を駆使した乗りもの

は好奇心を刺激し、ものづくりに秘められている無限の可能性とロマンを感じさせてくれます。

こまつちゃん ●9月22日（木・祝）は「乗りもののまち小松」にふさわしいイベントの開催ですね。

和田市長 ●今回の「こまつ乗りもの動物園」は、動物に見立てた市内に点在する乗りもの達を一堂に集めて、本物の動物園のように一つの場所で触れ合えることが醍醐味です。

こまつちゃん ●コマツやジェイ・バスなど、日本を代表する「乗りもの」「ものづくり」の大企業もありますね。

和田市長 ●小松には優れた企業と、先人達が生業として培ってきた「ものづくりの技術」が脈々と息づいています。ものづくりの歴史は、私達市民のDNAに「どんな困難にも挑戦する強さ」として受け継がれています。そして、ものづくり精神が生活の一部となっている私達が力を合わせれば、これからの未来を切り拓いていけると確信しています。

これからの市民一丸となって「乗りもの」「ものづくり」へ夢を抱く子供達を応援していきますよ。

Global Challenge! ～世界に挑戦しよう～

市では青少年交流や市内に住む外国人の支援、様々な国からの視察団の受け入れなど、国際交流事業を活発に進めています。

今回は、今年の夏に行われた姉妹都市イギリス・ドイツヘッド市、友好交流都市ロシア・アンガルス市との青少年交流について報告します。「国際交流って何だろう？」「外国の友達に欲しい！」市では、そんな皆さんのチャレンジを心から応援していきます。



7月、姉妹都市イギリス・ドイツヘッド市から青少年10人を招いて、小松市の青少年団員宅でのホームビジットや学校訪問、様々な文化体験を行い、相互理解を深めました。



8月、小松市の青少年8人が友好交流都市ロシア・アンガルス市に派遣され、ホームステイを体験しながら、初めて見る文化や人々との交流を通して、国際感覚を養いました。



問い合わせ 国際都市推進課 ☎24・8039

f Visit Komatsu